

**募集 芭蕉祭子ども合唱団
参加者募集**

平成22年度(第64回)芭蕉祭式典で『芭蕉さん』を歌っていただく「芭蕉祭子ども合唱団」の参加者を募集します。ぜひご参加ください。

【芭蕉祭式典日時】

10月12日(火)
午前9時25分～11時45分
※出演時間は午前9時30分～40分の約10分です。

【式典開催場所】

上野公園内俳聖殿前広場

【対象者】

小学校3～6年生
※練習および式典に参加できる人

【募集人数】

30人 ※先着順

【曲目】

『芭蕉さん』

【練習日時】

9月25日(土)、10月2日(土)
午前10時～11時

【練習場所】

中央公民館ホール

【申込方法】

電話、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください。

【申込先・問い合わせ】

企画課
☎ 22-9621 FAX 22-9628
✉ kikaku@city.iga.lg.jp

人権パネル展

【とき】 8月9日(月)～26日(木)
午前9時～午後5時
※土・日曜日を除く。

【ところ】 いがまち人権センター

【展示内容】 峠三吉のうた
峠三吉さんは、広島で被爆し、原爆症に苦しみながらも、原爆の犠牲者の痛み、苦しみ、叫びを詩にのせ、広島の文化活動のリーダーとなりました。パネルには、峠三吉さんの詩集(一部抜粋)が作画とともに掲載されています。

【問い合わせ】 いがまち人権センター
☎ 45-4482 FAX 45-9130

募集 離乳食教室

【とき】 8月19日(木)
午後1時30分～3時30分

【ところ】 いがまち保健福祉センター

【内容】 講話「離乳食3回食を中心に」、離乳食の調理と試食、栄養相談
※調理実習の際、先着5人まで託児があります。

【定員】 20人
【持ち物】 母子健康手帳、筆記用具、エプロン、三角巾、手ふきタオル

【申込受付開始日】 8月10日(火)
※先着順・電話予約制

【申込先・問い合わせ】
伊賀支所住民福祉課
☎ 45-1015 FAX 45-1055

同和問題講演会

【とき】 8月29日(日)
開場：午後1時
開演：午後1時30分

【ところ】 青山ホール

【演題】 『ぬくもりを感じて』
※手話通訳を行います。

【講師】

徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会『止場の会』中倉 茂樹さん

【問い合わせ】

青山支所住民福祉課
☎ 52-3232 FAX 52-2174

**第6回伊賀市教育研究会
全体会・記念講演会**

【とき】 8月25日(水)

【ところ】

伊賀市文化会館さまさまホール

【内容】

◆全体会 午後2時30分～

※教育研究会会員対象

◆記念講演会 午後3時～

※一般参加可能

【演題】

『子どもと教師の元気パワーUP』

【講師】

明治大学文学部
教授 諸富 祥彦さん

【問い合わせ】

伊賀市教育研究会事務局
☎ 23-7004 FAX 23-7004

**聴診器
市民病院だより**



糖尿病の最新の治療薬

健診センター 藤川 勝彦



厚生労働省は「2007年国民健康・栄養調査」で、糖尿病が強く疑われる人が約900万人、糖尿病の可能性が否定できない人(糖尿病予備群)が約1,300万人、合計2,200万人(10年前の約1.3倍)と推定しています。

糖尿病の治療には食事療法、運動療法、薬物療法(経口糖尿病薬、インスリン注射)があります。糖尿病には致命的な合併症がたくさんあるため、合併症が進行する前に、低血糖・体重増加を起こさない理想的な血糖コントロールをどのようにして実現するかが大きな課題となっています。昨年12月から、国内では10年ぶりの新しい作用をもたらす2型糖尿病治療薬のインクレチン関連薬が相次いで発売されました。

インクレチンは、消化管から分泌されるインスリン分泌を促すホルモンで、栄養素が消化管にとりこまれると、インクレチンである

「GLP-1」などが小腸から分泌され、血糖依存的に膵臓からのインスリン分泌を増加させ、グルカゴンの分泌を低下させることで、血糖値を適正にコントロールしています。しかし、インクレチンは血中などに多くある酵素「DPP-4」によってすぐに分解されてしまいます。

そこで開発されたのが、インクレチンの分子構造を一部変えて分解されにくくした「GLP-1アナログ」の注射剤である「リラグルチド」とDPP-4の活性を阻害する「DPP-4阻害薬」の経口薬である「シタグリプチン」、「ビルダグリプチン」、「アログリプチン」です。

インクレチン関連薬は血糖に依存して作用するため、低血糖・体重増加などの副作用は少ないと考えられています。糖尿病の治療中の人で、現在の血糖コントロールが不十分と思われる人、副作用にお悩みの人は主治医にご相談ください。



募集 にほんご指導ボランティア 養成講座受講生募集

【とき】

- 9月4日(出)、11日(出)、10月2日(出)、9日(出)、30日(出)
午前10時～午後4時10分
- 11月6日(出)
午後1時～4時10分

【ところ】 ゆめぼりすセンター

【対象者】

※次のいずれかの条件を満たす人
(外国語の能力は不要)

①教員・公務員および民間企業の退職者で、外国人を対象にした日本語の教え方に関心のある人②講座修了後に日本語指導活動ができる人③原則として、すべての講座に参加できる人

【定員】 16人 ※先着順

※8月5日から受付開始します。

【受講料】 無料

※ボランティア保険料は実費負担

【申込方法】 住所・氏名・年齢・教員免許取得の有無・電話番号・Eメールを明記の上、お申し込みください。

【申込先】

〒518-0823
伊賀市四十九町1278-26
特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン同夢
☎ 23-9513 FAX 23-9513
✉ son@doumu.net

【問い合わせ】 市民生活課

☎ 22-9702 FAX 22-9641

募集 「平成22年国勢調査」 調査員を募集します

【募集人数】

若干名

【応募要件】

- ① 20歳以上の健康な人
- ② 責任をもって調査事務を遂行できる人
- ③ 秘密を保持できる人
- ④ 税務、選挙、警察用務に直接関わりのない人

【任命期間】

9月1日(水)～10月31日(日)
※毎日活動に従事する必要はなく、あらかじめ指定された期間内に調査事務をします。

【内容】

市より指定された調査区のすべての世帯について、調査票の配布および回収などを行います。

※1人が担当する調査世帯件数は50～100件程度です。

【報酬】

平均4万円～5万円(受け持つ調査世帯件数により差異あり)
※任命期間中は非常勤の公務員です。調査活動中に万一事故にあってけがをした場合は補償されます。
※8月下旬～9月上旬に、調査に関する説明会を実施します。

【申込先・問い合わせ】

総務課
☎ 22-9601 FAX 24-2440

募集 三重県立北星高等学校 入学者の秋期募集

北星高等学校は、午前・午後・夜間の3部制の定時制と、平日・日曜日両コースのある通信制課程を併設した高校です。

半年ごとに単位認定をする単位制です。

【募集人数】

◆定時制昼間部の普通科・情報ビジネス科
各4人

◆定時制夜間部普通科

2人

◆通信制普通科

60人

【試験内容】

作文・面接
※転入学試験も同様

【出願期間】

9月6日(月)～13日(月)

【試験日】

9月15日(水)

【合格発表】

9月17日(金) 午前10時

【その他】

願書は8月10日(火)から北星高等学校事務室で配布します。詳しくはお問い合わせください。

【申込先・問い合わせ】

三重県立北星高等学校
(四日市市大字茂福字横座668-1)
☎ 059-363-8111

明日に 向かって

～差別をなくしていくために～

聞きたくない話

— 大山田支所住民福祉課 —

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

新しい年度となり、4カ月がたちました。機構改革で本庁と支所の機能が整理されたため、支所の職員数が減少しています。しかし、住民のみなさんの中には、職員数が減ったことへの不安を漏らしながらも、「職員が少なくなると、中には知らない人もいますが、まだ支所が近くにあるから便利やわ。」「今年も支所のもん(職員)がちくこん(人権啓発地区別懇談会の略称)に来てくれるんやろ。待ってるでな。」と励まし、期待をしてくれ、声を掛けてくれる人がいます。

少なくなった職員数に不安を持ちながらも、あたたかく見守ってくれる住民のみなさんを思うと、市行政の最前線にいるという自覚が込み上げてきます。

しかし、ときには苦情を聞くこともあります。「この前、あることで担当部署に電話で問い合わせたんやけど、自分の名前は決して名乗らず、私には“お名前は?”って…頭にきて!」「直接担当課の窓口に出向き、説明を求めたときに“そのことについては広報〇〇月号に載ってます”やっ

て! あんたもこんな説明したりしてないやろな。」と。

聞きたくない話…。最初はそう思いました。しかし、4月から窓口近くに席を置くようになってからは、職場で担う責任のようなものを肌で感じ、苦情を他人事のように聞いていたこれまでの自分に気づき、恥ずかしくも情けなくなりました。

多種多様な申請、相談、苦情などに対応し、用件を済ませた人に「ありがとうございました。」と声を掛けると「ありがとう。」と笑顔が返ってくる。初めて出会う人でも、顔見知りの人にもでも変わらぬ対応を自分ではできるか? 人権啓発に関わってきて、十分に対応できていると思いがっていた自分。今年ほど“来庁される人々の想いや人権を尊重した対応ができていたか”問い直したことはありませんでした。

住民のみなさんは、私たちに對し、あたたかくも“厳しく”見守ってくれています。改めてすべての市職員が、“私が最前線”という意識を持たなければなりません。